

令和 6 年度 1 学期期末考查

78 期第 2 学年

古典探究

100 点
50 分

令和 6 年 6 月 27 日 (木)

注 意 事 項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- 2 解答用紙は、この冊子の間に挟んであります。
- 3 この問題冊子は 10 ページあります。問題は四問です。
- 4 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を上げて監督の先生に知らせなさい。
- 5 解答用紙の氏名欄に必ず記名すること。
- 6 解答は、必ず解答用紙の所定の解答欄の枠内に 1 行で収まるように記入なさい。
- 7 楷書で丁寧に記入しなさい。判別不能の文字は採点対象外とします。
- 8 字数制限のあるものは、原則として句読点も一字に数えます。
(指示のあるものは除く)。
また、制限字数の 8 割に満たない解答は採点対象外とします。
- 9 問題冊子の余白等は適宜利用してよいが、どのページも切り離してはいけません。
- 10 試験終了後、問題冊子は持ち帰りなさい。

	組		番	氏名	
--	---	--	---	----	--



大分県立大分上野丘高等学校

「一」次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

大納言なりける人、小侍従と聞こえ(ア)し歌よみに通はれけり。ある夜、もの言ひて、暁帰ら(イ)れけるに、女の家の門をやり出だされけるが、きと見返りたりければ、この女、名残を思ふかとおぼしくて、車寄せの簾に透きて、一人残りたりけるが、①心にかかりおぼえてければ、供なりける蔵人に、「いまだ入りやらで見送りたるが、振り捨てがたきに、(i)何とまれ、言ひて(ア)来。」とのたまひければ、②「ゆゆしき大事かな。」と思へども、ほど(B)経べきことなら(ウ)ねば、やがて走り入り(エ)ぬ。車寄せの縁のきはにかしこまりて、「申せと候ふ。」とは、(ii)さうなく言ひ出でたれど、③何と言ふべき言の葉もおぼえぬに、折しも、ゆふつけ鳥、声々に鳴き出でたりけるに、「飽かぬ別れの」と言ひけることの、きと思ひ出で(オ)られければ、

④ものはと君が言ひけん鳥の音の今朝しもなどかなしかるらん

とばかり言ひかけて、やがて走りつきて、車のしりに乗りぬ。家に帰りて、中門に降りてのち、「さても、何とか言ひたりつる。」と問ひ給ひければ、「かくこそ。」と申しければ、⑤いみじくめでたがられけり。「(iii)さればこそ、使ひにははからひつれ。」とて、感のあまりに、領る所など給びたりけるとなん。この蔵人は内裏の六位など経て、⑥やさし蔵人と言はれける者なりけり。

問一

A

B

の用言について、活用の種類と活用形を答えよ。

知技

問二 二重傍線部(ア) (イ) (オ)の助動詞の文法的意味を漢字で答えよ。

知技

問三 波線部(i) (ii) (iii)の語句の意味として最もふさわしいものを次の中からそれぞれ選べ。

知技

(i) 「何とまれ」

ア 何とかして

イ 何となく

ウ 何でもいから

エ 何も伝えず

オ 何かよいことを

(ii) 「さうなく」

ア ためらわず

イ それとなく

ウ わざと

エ 並ぶものがなく

オ 思いもよらず

(iii) 「さればこそ」

ア そうすれば

イ それを期待して

ウ そうだとしても

エ そうだから

オ そうはいってもやはり

問四

傍線部①「心にかかりおぼえてけれ」に込められた心情として、最もふさわしいものを次の中から選び記号で答えよ。

思表判

ア 小侍従と一夜を共にした大納言が、一人その場に取り残される小侍従の心細さに思いを馳せる気持ち。

イ 大納言と一夜を共にした小侍従が屋敷を出る際に、恋人の大納言との後朝の別れを惜しむ気持ち。

ウ 小侍従と一夜を共にした大納言が小侍従を見送る際に、恋人の行く末を気がかりに思う気持ち。

エ 大納言と一夜を共にした小侍従が大納言を見送りながら、恋人との別れを名残惜しく感じる気持ち。

オ 小侍従と一夜を共にした大納言が、自分を一人見送る小侍従のことが気がかりに思われる気持ち。

問五

傍線部②「ゆゆしき大事なな」について、ここには蔵人のどのような気持ちが込められているか。50字以内で説明せよ。

思表判

問六 傍線部③「何と言ふ・・・」を現代語訳せよ。ただし、「言の葉」は何を意味するか明らかにすること。思表判

問七 傍線部④「ものかは」は、小侍従がかつて詠んだ次の和歌に由来する言葉であるが、小侍従の和歌では「ものかは」はどのような意味で用いられているか、60字以内で説明せよ。思表判

【小侍従の和歌】 待つ宵に更けゆく鐘の声聞けば飽かぬ別れの鳥はものは

問八 傍線部⑤「いみじくめでたがられけり。」について、次の問いに答えよ。

(1) 現代語訳せよ。思表判

(2) この結果、大納言は蔵人の功にどのように報いたか。10字以内で答えよ。思表判

問九 傍線部⑥「やさし蔵人」について、蔵人がこのように評された理由として、最もふさわしいものを次の中から選び記号で答えよ。

思表判

ア 小侍従の和歌を超えるほどの素晴らしい和歌を詠み、歌人としての能力の高さが噂になったから。

イ 巧みな和歌を詠むだけでなく、さりげなく大納言への配慮を行う振舞いに対して高く評価されたから。

ウ 相手がかつて詠んだ和歌を巧みに利用して、その場にふさわしい内容の風流な和歌を即興で詠んだから。

エ 古歌を引用した素晴らしい和歌を詠み、その当意即妙な才知と風流さが多くの人を感動させたから。

オ 小侍従の大納言への思いを代弁するために、相手の和歌を巧みに利用した返歌を詠むことができたから。

【二】次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

(A) 二月つごもりごろに、風いたう吹きて、空いみじう黒きに、雪少しうち散りたるほど、黒戸に(B)主殿寮来て、「かうて候ふ。」と言へば、寄りたるに、「これ、公任の宰相殿の。」とてあるを見れば、(C)懐紙に、

X 少し春ある心地こそすれ

とあるは、げに今日のけしきにいとよう合ひたるを、①これが本はいかてか付くべからむと、思ひわづらひぬ。「たれたれか。」と問へば、「それぞれ。」と言ふ。みないと(i)はつかしき中に、宰相の御いらへを、いかてかことなしびに言ひ出でむと、心一つに苦しきを、②御前に(ii)御覽せさせむとすれど、上の(a)おはしまして大殿籠りたり。主殿寮は、「とく、とく。」と言ふ。げに、③おそうさへあらむは、いととりどころなければ、(iii)さはれとて、

Y 空寒み花にまがへて散る雪に

と、わななくわななく書きて取らせて、いかに思ふらむと、④。⑤これがことを聞かばやと思ふに、そしられたらば聞かじとおぼゆるを、「俊賢の宰相など、『なほ内侍に(b)奏してなさむ。』となむ、定め(c)給ひし。」とばかりぞ、左兵衛督の中将におはせし、語り給ひし

問一 A C の語句の読みをひらがなで答えよ。 知技

問二 波線部 (i) ~ (iii) の語句の意味として最もふさわしいものを次の中からそれぞれ選べ。 知技

(i) 「はづかし」

ア ためらわれる

イ 見苦しい

ウ きまりが悪い

エ 遠慮される

オ 立派な

(ii) 「御覽ぜさす」

ア お目にかける

イ ご覧になる

ウ 見させなさる

エ 拝見させる

オ お知らせする

(iii) 「さはれ」

ア ええい、ままよ

イ そうはいつでもやはり

ウ まあ、なんてこと

エ さあ、行きなさい

オ それならば仕方ない

問三 二重傍線部 (a) ~ (c) の敬語について、(1) 敬語の種類と (2) 敬意の方向を答えよ。ただし、敬語の種類と敬意の方向については、次の語群の中から該当するものを選び、すべて記号で解答すること。 知技

〔敬語の種類〕

ア 尊敬語

イ 謙譲語

ウ 丁寧語

〔敬意の方向〕

ア 筆者 (清少納言)

イ 公任の宰相殿

ウ 主殿寮

エ 御前

オ 上 (帝)

カ 俊賢の宰相

キ 内侍

ク 左兵衛督の中將

問四 傍線部①「これが本は……」をわかりやすく現代語訳せよ。 思表判

「又々定子」

問五 傍線部②「御前」は、筆者（清少納言）が仕えたとされる女主人である。彼女の名前を漢字4字で答えよ。 知技

問六 傍線部③「おそうさへあらむは、いととりどころなけれ」とは、どういうことか。わかりやすく50字以内で説明せよ。 思表判

問七 空欄④に当てはまる古語として最もふさわしいものを次の中から選べ。 思表判

ア あさまし イ めざまし ウ いみじ エ わびし オ すさまじ

問八 傍線部⑤「これがことを聞かばやと思ふに、そしられたらば聞かじとおぼゆる」について、これは誰のどのような心情か。60字以内で説明せよ。 思表判

問九 本文のXとYを組み合わせると一首の和歌になる。これは次の漢文を題材として詠まれた和歌である。この和歌と題材となった漢詩について、次の問いに答えよ。

(1) Yの「空寒み」を現代語訳せよ。 思表判

(2) 題材となった漢詩の作者とされる唐代の詩人の名前を漢字で答えよ。 知技

(3) 清少納言はYを詠んだことで、高く評価を受けるが、彼女が評価された理由として適切でないものを次の中からひとつ選び記号で答えよ。 思表判

☒ ア 漢詩に関する知識が深く、Yの中に題材となった漢詩を連想させる表現を用いている点。

☒ B 主殿寮が届けた懷紙に書かれていたXを、公任の宰相殿が漢詩を踏まえて詠んだと見抜いた点。

ウ 「雲冷多飛雪」を「空寒み」「散る雪に」と、漢文調の表現を和歌の形に変えて詠んでいる点。

☒ E 突然の問いかけであるにも関わらず、即興で優れた返事を返した当意即妙を發揮した点。

オ 桜の散る様子を、雪が舞っている情景に見立てて寒さの残る初春の季節感を表現している点。

白鳥

【三】敬語文法について、次の(一)～(三)の問題に答えよ。[知技]

(一) 次の文語の敬語動詞(本動詞)について、後の選択肢から基本となる動詞としてふさわしいものを選び、記号で答えよ。

- ① 給ふ ② まかづ

〔選択肢〕ア 与ふ イ 言ふ ウ 出づ エ 思ふ オ 聞く カ 呼ぶ

(二) 次の傍線部の敬語について、後の選択肢から敬語の種類を選び、記号で答えよ。

③ 惟喬の親王と申す親王おはしましけり。ア

④ 世の人、光る君と聞こゆ。イ

⑤ 親王、大殿籠らで明かし給うてけり。ア

⑥ 身の候はばこそ、仰せごとも承らめ。イ

⑦ 「久しく双六つかまつらで、いとさうざうしきに、今日あそばせ。」ア

⑧ 常にはもうで、もの奉りなどしけり。イ

〔選択肢〕ア 尊敬語 イ 謙讓語 ウ 丁寧語

(三) 次の傍線部を敬語に注意しながら現代語訳せよ。

⑨ 「一門の運命はや尽き候ひぬ。」

⑩ 「いまだ世にやおはすると、消息奉らむ。」

白

【四】次の傍線部の口語訳として最も適当なものを選び、それぞれ記号で答えよ。

知技

1 薬の壺に御文添へて参らす。(竹取物語)

ア 奏上する イ お伺いする ウ お尋ねする エ 差し上げる

2 御身に馴れたるどもをつかはす。(源氏物語)

ア お召しになる イ お与えになる ウ お取り寄せになる エ お見せなさる

3 忠岑も禄たまはりなどしけり。(大和物語)

ア お取り寄せ イ お召しになり ウ いただき エ くださり

4 おのがもとにめでたき琴侍り。(枕草子)

ア 控えている イ いたします ウ 伺候する エ あります

5 よきに奏し給へ、啓し給へ。(枕草子)

ア (大臣にも) 申し上げ イ (法皇にも) 申し上げ ウ (宮中にも) 申し上げ エ (皇后にも) 申し上げ

6 御心あきらかに、よく人をしろしめせり。(大鏡)

ア お尋ねになった イ おとがめになった ウ ご存じであった エ お召しになった

7 憶良らは今はまからむ子泣くらむ(万葉集)

ア お休みし イ 退出し ウ お参りし エ お止めし

8 などかくは仰せらるる。(落窪物語)

ア 申し上げる イ 差し上げる ウ ご覧になる (エ) おっしゃる

9 後涼殿にもとよりさぶらひ給ふ更衣の曹司を、ほかに移させ給ひて、上局に賜はす。(源氏物語)

(ア) お与えになる イ おつかわしになる ウ 頂戴する エ お聞きする

10 きこしめす人、涙を流し給はぬなし。(宇津保物語)

ア ご覧になる イ 申し上げる ウ お仕えする (エ) お聞きになる

11 帝ばかりは御衣を召す。残りは皆裸なり。(沙石集)

ア 献上する (イ) お召しになる ウ お楽しみになる エ 頂戴する

12 かぐや姫のたまふやうに違はず作り出でつ。(竹取物語)

ア お思いになる イ おっしゃる (ウ) 申し上げる エ なさる

13 定めて習ひあることに侍らむ。ちと承らばや。(徒然草)

ア いただき イ お受けし ウ お話し (エ) お聞きし

14 昔、二条の後に仕うまつる男ありけり。(伊勢物語)

(ア) お仕え申し上げる イ 寵愛される ウ 参上する エ 召し抱えられる

「くらしもちの皇子おはしたり」と告ぐ。(竹取物語)

ア お与えになった イ いらっしゃった ウ 参上した

エ おっしゃった